

## 応急パンク修理液使用手順



(1) 使用前にボトルを良く振ります。  
(沈降した閉塞材を分散させるため)



(2) バルブキャップを外します。  
パンク穴が確認できる場合、パンク穴が下になるように車を前後させてください。  
パンク穴が確認できない場合、修理液を注入後ホイールによりタイヤが傷まないようにゆっくり車を前後させてください。



(3) バルブコア回しを使いバルブコアを外します。



(4) キャップを外し、注入ノズルを取付けます。  
注入ノズルの先端をバルブ部分に接続します。  
ボトル部分を握り、修理液を注入します。  
注入ノズルやバルブ部で閉塞材が詰まった場合再度ボトルを振ってから注入してください



(5) バルブコアを装着します



(6) コンプレッサーのノズルをバルブ部に接続します。



(7)コンプレッサーの電源プラグを自動車の電源ソケットに差し込みます



(8)コンプレッサーのスイッチを入れコンプレッサーを稼働させます。



(9)指定空気圧まで空気を充填します。



(10)コンプレッサーのノズルを外します



(11)バルブキャップを装着します。

## 注意



- ・トレッド面にできた6mm以下のパンク穴を修理することができます。  
6mmより大きいパンク穴、切り裂き傷、サイド部分のパンク穴は修理することができません。
- ・修理液を注入する時のタイヤのバルブの位置は修理に影響ありません。パンク穴が下になるように車を前後させてください。
- ・釘が刺さっている場合、抜かないで修理を行ってください。
- ・翌日エア圧の低下がみられた場合、閉塞材が抜け落ちた可能性がありますので再度空気を充填してください  
閉塞材が抜けてもタイヤ内部に残っている修理液により再びパンク穴を閉塞します。
- ・注入後は時速80km以下で走行してください。スピードを出しすぎるとホイールバランスが崩れているので振動が発生するおそれがあります。